

「主体的に学習に取り組む態度」を備えた学習者の育成を目指して

令和6年度 授業力向上推進プロジェクト委員会 最終成果物
岐阜県立長良高等学校 桑原 啓優

1

1. テーマ設定の背景

2

前置き...研究で大切にしたいこと

- ① 普通の授業に「ちょい足し」でできること
- ② 普通の授業にある程度の変化を起こせること

「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」「学習指導要領」...

キーワードは難しいですが、お伝えすることは

シンプルかつフレンドリーに

3

はじめに

「主体的に学習に取り組む態度」の「評価」の方法ではない

【評価について：参考資料より】

【参考資料 事例5より】

「思考・判断・表現」の評価規準には、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを必ず含むものとしている。目的や場面、状況などに応じたコミュニケーションを図ろうとするためには、「外国語の背景にある文化に対する理解」や、「聞き手、読み手、話し手、書き手への配慮」が必要である。このことも、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を、「思考・判断・表現」の評価規準と対の形とし、基本的には一体的に評価することができるとした理由である。

⇒ 『「思考力・判断力・表現力」と一体的に見取る』ということで整理できる。

4

はじめに

ただし...【知・技】と【思・判・表】の2観点ではない。

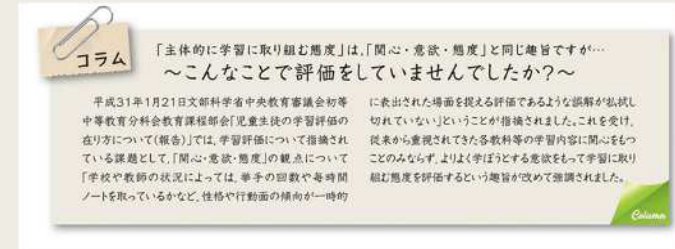
【評価について：参考資料より】

ただし、生徒の特性や学習段階により、主体的に学習に取り組む態度が必ずしもコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた発話や筆記等に表れない場合もあるため、そのような段階にある生徒の「主体的に学習に取り組む態度」の評価結果は、「思考・判断・表現」の評価結果と一致しない場合もある（事例1参照）。「思考・判断・表現」と基本的には一体的に評価しつつ、言語活動への取組状況を観察しその結果を加味するということであり、生徒の態度を見取することはこれまで同様重要である。

「主体的に...」に関する取組を行わなくても良いとは書かれていない。

5

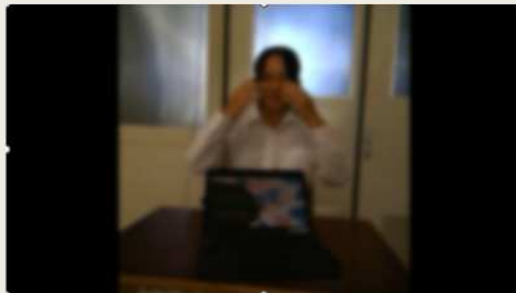
「態度」についてなぜ議論が起きたか



「挙手の回数や毎時間ノートを取っているか」など...ではなく、
「よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価する」
→評価の客観性はどうか、そもそも現実的にできるのか...などの議論に

6

「態度」は難しい物なのか？



粘り強く
取り組んでいるかは
見て取ることができる。

「学習に取り組む態度」を客観的指標に基づいて見取ろうとするのは困難だが、
「よりよく学ぼうとする意欲」を「直感的に」感じ取るのは普段から行っている。

+ 「態度」に関わる指導は特別なものではない。

7

学校教育における「態度」とは

学校教育法第30条2項（小学校における学力の要素）

...生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。



態度 = メタ認知
※自分自身について知ること

高等学校になると…高等学校学習指導要領より

高等学校では、中学校における「主体的」に加え「自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度」としている。これは、外国語科の特性として、目標を達成するための言語活動において他者とのコミュニケーションが必要とされるが、学習内容等が高度化・複雑化する高等学校においては、授業等において言語活動を通して実際にコミュニケーションを図るだけでなく、それらのコミュニケーションを通して自分にはどのような力が足りないか、どのような学習が更に必要かなどを自ら考え、それぞれが授業での言語活動を充実させるための努力を授業外でも続けようとするより自律的な態度が一層強く求められることと関連している

8

見取れなければ、指導ができない

「授業等において言語活動を通して実際に…」

【言語活動】

「話すこと（やりとり）」
「話すこと（発表）」
「書くこと」

「読むこと」
「聞くこと」

目で見える成果がある
= 生徒の発話や記述を見て
態度を見取ることは可能

目で見える成果がない
= 態度を見取るための
仕掛けが必要

9

普段の指導の中でよくある場面を 授業内で再現する

【生徒との雑談で…】

「岐阜高校の友達に文法の参考書紹介してもらって半年ぐらいやってるんですけど、全然英語できるようになってる気がしません。」

- ・英語の何ができるようになりたいのか
- ・何のために、どんな効果を期待して学習しているのか
- ・今、何ができて何ができていないのか

文法の参考書もらって半年ぐらいやってる・・・「タスク」
全然英語できるようになっている気がしません・・・「振り返り」

「タスク」と「振り返り」が揃えば、指導ができる

10

参考資料からも

参考資料より

生徒が①目標を把握する、または、生徒自らが目標を設定する、②学習の見通しを立てる、③②での学習の見通しを意識しながら、授業などで目的や場面、状況などが明確に設定された言語活動に取り組む、④自分の学習状況を振り返り、次の目標につなげる、というような過程を繰り返しながら学習に取り組んでいくことが大切である。【…中略…】また、教師による明示的な指導を通してだけでなく、ペアやグループでの共同的な学びを通して、生徒は自分に合った学び方を主体的に模索したり、他者の学び方を参考にしたりすることができると考えられる。【…中略…】ペアやグループでブレインストーミングをするステップを踏んだり、書く際に気を付けるべき点などをペアやグループで話し合ったりすることにより…

”Reflection（振り返り）”の適切な実施

11

研究の方向性

①「タスク」に対する効果的な「振り返り」の方法を提案する

「振り返り」はそれだけで生徒を伸ばすきっかけになるかもしれないが「振り返り」を実施しただけでは、「態度」=メタ認知能力は育たない。

②「振り返り」に対する指導の方法を検討する

普段の授業に「ちょい足し」でできること
普段の授業にある程度の変化を起こせること
シンプルかつフレンドリーに

12

2. 具体的な取り組み

13

参考資料より...具体的な手法の例

参考資料より...

振り返りシートの使用は、定期考査ごとに実施するなど、年間を通し、重点的に指導した領域について振り返りが行われるよう無理のないように計画して行う。以下に、振り返りシートの一例を示す。生徒は、単元の学習期間を通して1枚の振り返りシートを使用し、教師は単元の学習の開始時 (STEP 1)、途中 (STEP 2)、終了時 (STEP 3) のそれぞれの段階で、振り返りシートの記述内容から生徒の学習の状況を把握し、適宜指導を行う。また、授業の中で全体に対して指導を行うようにする。例示した「振り返りシート」は参考資料として詳細なものを提示したが、学校や生徒の実情に合わせて、より単純化したものを活用したり、選択肢を与えて生徒がチェックボックスにチェックを入れる形式にしたりするなど、振り返りシートの記入が過度の負担とならないように配慮する。



- ①重点的に指導した領域について振り返りを行うこと
- ②振り返りは記述・チェックボックスなど実情に応じて手法を変える
- ③生徒の状況を把握し、適宜指導を行う

14

振り返りに意味を持たせる

振り返りシートの使用は、定期考査ごとに実施するなど、年間を通し、重点的に指導した領域について振り返りが行われるよう無理のないように計画して行う。



例1：チェックボックス形式で...

【本日の授業の取り組み】

Very good Good So-so Not good Bad

例2：記述形式で

【本日の授業を振り返って】

楽しかったです。またやりたいです！
友達と英語で頑張って話すことができた。
全然読めなかった。

振り返りに意味を持たせなければただの感想に...

15

意味のある振り返り

例：パフォーマンステストに向けて

前期PT：プレゼンテーション

- (教科書ベースで) テーマを設定してプレゼンの準備
- 授業内でプレゼンの発表に必要な技能の指導

Retellingを軸に
Delivery / Accuracyの指導

16

Retellingの振り返り

そもそも良いRetellingとは？

- 要点を過不足なく伝える
- 文法・語法的に正確である
- 聞き手に配慮しながら話している 等



Presentationに向けた指導という位置づけになると...

- Deliveryが良い (Gesture / Eye-contact等)
- Pronunciation・Intonationに気を付けて話している 等の要素も

17

Retellingの振り返り

例1：チェックボックス形式で...

【本日の授業の取り組み】

- Very good Good So-so Not good Bad



Presentationに向けたRetellingなら...

例

- 相手の目を見て 話せた 少し見ながら話せた 見られなかった
発音に 気を付けた 少し気を付けた 気を付けていない

普段のRetellingなら...

例

- 文法・語法は 正確にできた 怪しかった
要点は 十分まとめられた 分からないところがあった
まとめられなかった

18

Retellingの振り返り

チェックボックス形式の振り返り

- = 教員と生徒間でのタスクの意図の共有
- = 生徒への「振り返りの視点」の提供

【本日の授業を振り返って】

楽しかったです。またやりたいです！
友達と英語で頑張って話すことができた。
全然読めなかった。

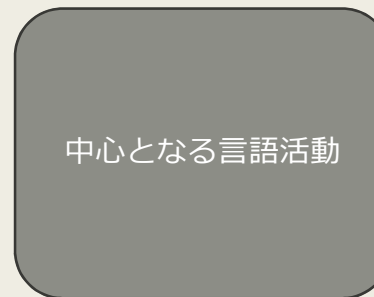


記述内容の具体化・焦点化へ

19

普段の授業に「ちょい足し」

言語活動の狙いを焦点化して



振り返りの実施

授業の骨組みは変える必要はない

効果的に振り返りを足すことで、
言語活動の成果をさらに引き出す

+

振り返りの視点を与えていく

20

普段の授業に「ちょい足し」

Receptive Skillsに関わる言語活動でもワークシートの下に「ちょっと」足すだけ言語活動を問わず振り返りは設定可能

焦点を置く項目は
タスクの意図によって変化させる

毎回のフィードバックの必要もなく、
教員への負担も少ない



21

振り返りの視点を提供した先に

【先ほどの生徒の発言から】

「岐阜高校の友達に文法の参考書紹介してもらって半年ぐらいやってるんですけど、全然英語できるようになってる気がしません。」

⇒学習の視点についてのインプットはある = 文法をやると良い

普段文法だけに特化した指導はしていない。



伸びてこないということは...原因は文法以外にもある。
= 「普段の姿」と「振り返り」の間のずれ

振り返りが適切かどうかの指導が必要

22

見取れなければ、指導ができない

「授業等において言語活動を通して実際に・・・」

【言語活動】

「話すこと（やりとり）」
「話すこと（発表）」
「書くこと」

「読むこと」
「聞くこと」

目で見える成果がある
= 生徒の発言や記述を見て
態度を見取ることは可能

目で見える成果がない
= 態度を見取るための
仕掛けが必要

23

「言葉で書かせて」診断する

「岐阜高校の友達に・・・」

= 生徒の発言が生徒のメタ認知の「診断」の機会に。

チェックボックスによる振り返りは

- ・ 観点に基づいた自己調整の機会
- ・ 振り返りの視点の提供

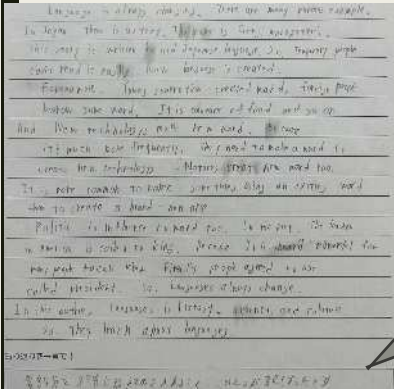


生徒が自分の問題を正しく理解できているとは限らない

「言葉で書かせて」診断していくことが必要

24

「言葉で書かせて」診断する



【Essay Writingなら】

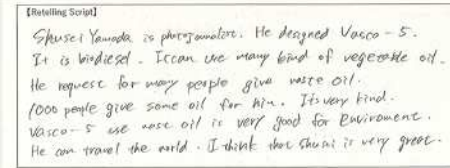
Essayに目を通してフィードバックを提供

+

振り返りに対するフィードバックも併せて行うようにする

タスクの最後に「ことば」で振り返りを記述
↓
「焦点化」と実際のパフォーマンスと生徒の振り返りの記述のベクトルが一致しているかを見る

判断に困ったら生成AI



Chat GPTにスキャンor写真撮ってアップロード

プロンプトは

「振り返りの内容は生徒の記述と一致しているか。より適切な振り返りにするとしたらどんな振り返りが良いか」等

文法が「あてこらしめ」しているため 基本的な文法から
完璧に書けるようにしたい
難しい表現を使わずに簡単な表現で
「ことば」にしたい
文法ミスはなるべく減らしたい

Chat GPTのフィードバック

フィードバックの結果は全体へのフィードバックに活用、または生徒に個別に返却（可能な範囲で）

個別に返却する際はExcelに貼り付けて整理し、差し込み印刷などで一気にプリントアウト。

より適切な振り返りの例

① 具体的な問題点を整理する

- どのような間違いがあったのかを振り返る
- ✓ 「三単現の's'を忘れてしまった。」
- ✓ 「a や the をどこで使うかわからなかった。」
- ✓ 「長い文を作ろうとして文法が崩れてしまった。」

② 改善方法を考える

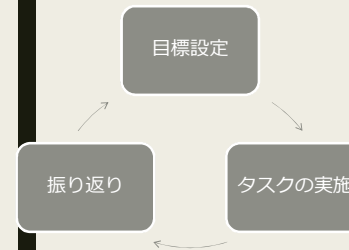
- 次にどうすればいいかを考える
- ✓ 「一文を短くすることを意識する。」
- ✓ 「主語・動詞・目的語の順番を確認する。」
- ✓ 「書いた後に 'he/she/it' のとき動詞に 's' をつけたか確認する。」

生徒さんが書ける振り返りの例

- ✓ 「文法がごちゃごちゃにならないように、短い文を書くようにする。」
- ✓ 「三単現の's'を忘れやすいので、書いた後にチェックする。」
- ✓ 「冠詞 (a, the) の使い方をもう少し勉強する。」

このように、「何ができなかったか」「どう直せるか」を明確にすると、次回のライティングで改善しやすくなります。

添削指導への批判



「ライティングにおいては、教師の添削はそれに費やしている時間に合うだけの効果がない(投野1995)」
※振り返りに対するコメントも同様

「学芸大学のプロジェクトの場合には、この英作文課題が外部の研究機関の研究材料だということを被験者が知っていたということなので、つまり例えば、その課題にどう取り組もうと、自分の英語の成績には直接関係はないということを知っていた…」(静2020)

⇒やっただけでは意味がない。

タスク実施後の振り返り+振り返りに対するフィードバックで終わるのではなく、振り返り内容を次に繋げていき、毎回の質的向上を促す工夫する

振り返りシートの見える化

振り返りシートの見える化

フィードバックを確認後、内容についてまとめさせる

↓

次の活動で前回の振り返りを基に目標を設定し、言語活動を実施

↑

パフォーマンスの内容が改善していないのに次の目標に移行していたり、振り返りが散漫になっている場合は振り返りシートにコメントを記入しながら指導が可能

29

工夫をちょい足し：矢印を引くと繋がりを意識するように

工夫をちょい足し：矢印を引くと繋がりを意識するように

英作文のタスクでこの形式の振り返りシートを採用

英作文に対するフィードバックは主に生成AIに任せ、教員は振り返りのチェックに焦点を置く

自己の課題が見えやすくなるため、振り返りがかなり適切になることから、振り返りの修正はほとんど不要

⇒負担の軽減

30

英語で書かせてさらにレベルアップ

振り返りを「英語で」書かせると英作文のタスクに

振り返りで使う表現 = 使う表現を指定する中で、振り返りの視点も提供する

自由英作文記述欄

単元末に回収して記述を確認したり、机間指導の中で「良い」振り返りを積極的に共有 = 振り返りの視点の提供

31

持続可能な取り組みにするために...

記述による振り返り
 取り組みと生徒の自己認知の間のずれの検知
 + フィードバックによる振り返りの改善

教員の負担も「ちょい足し...」

振り返りシートの使用は、定期考査ごとに実施するなど、年間を通して、重点的に指導した領域について振り返りが行われるよう無理のないように計画して行う...

毎回フィードバックを入れる必要はない
 最低限
 「内容のまとめり」毎に「できるところで」指導を行う

32

「内容のまとめり」になりやすい所

① パフォーマンステスト

② 定期テスト

(学校によっては検定試験や模擬試験等)

普段の授業でのフィードバックは一斉指導なども活用して負担を減らしつつ、頻度は少なくとも大きな区切りでしっかりとフィードバックをしていく

33

パフォーマンステスト後の指導

パフォーマンステスト (やりとり)

- ・英C教科書トピックから1つ選び、内容に関わるDiscussion
- ・クラスの半分をALT、半分をJTEが担当
- ・評価は全員映像に録画し、後日ALTが一括して実施

※評価基準の統一

34

Performance Test -Evaluation Sheet-

Evaluation	
知・技	思・判・表
A・B・C	A・B・C

ALTに外注

PT終了後、Formsから振り返りの送信



録画した映像を見てALTがExcelのスプレッドシートに評価+コメントを入力



ALTのコメントを見たうえで今後の取り組みについて記入させ、切り取り線以下を提出



必要に応じてフィードバック

ここまでで
学習の調整は十分

パフォーマンステストを振り返って

Comment from ALT

英語力を高めるために取り組んでいくことは?

Class: No: Name:

35

定期考査（後期中間考査）後の指導



【後期中間考査出題内容】

- ①教科書の2単元
- ②単語帳・補助教材（速読・リスニング）
- ③上記①・②の関連初見問題
- ④自由英作文
- ⑤定期考査に向けた取り組みのReflection（点数には入れない）

総合問題は出題せず、1大問につき問題の種類は1種類
⇒Reflectionの内容と各大問の正答数が相関しているかを確認⇒個別面談でFeedback

36

実際のコメントとフィードバック

【生徒のReflection】

試験時間が足りず、記述は「薄め」生徒の答案とコメントを見比べてその場で話せばいいため、負担は軽い1人1分で完結

- 本文にもっと目を通してあげばよかった → 大問3-4 (単語帳) の得点はあるが、教科書に関わる出題は【知・技】【思・判・表】ともに得点できていない。
⇒音読の取り組み方について助言
- もう少しターゲット (単語帳) を頑張りたい → 普段の取り組みはどうか、スペリングが弱いのか、意味が弱いのかを焦点化するよう指導。
補助教材全般の取り組みについて助言
- スペリングや初見の問題でつまづいたのを改めていきたい → 音声と文字の結び付けや、Reading力を伸ばすためのTrainingの方法について指導
- So difficult... → 何がダメなのか分からず困っている様子だったため、着手を始めるポイントを助言

37

フィードバックのために観点別作問を徹底

【大問構成】

1. リスニング (ディクテーション) 【知・技】
2. リスニング (初見聴解問題) 【思・判・表】
- 3-4. 単語帳 (他肢選択式) 【知・技】
5. 補助教材長文空所補充【知・技】
- 6-7. 初見英文【思・判・表】
8. 教科書重要例文並び替え【知・技】
9. 教科書誤文訂正【知・技】
10. Dialogue化した本文の空所補充【思・判・表】
11. 教科書要約文の空所補充【知・技】
12. 教科書本文の論理展開を問う問題【知・技】
13. 教科書感想文の空所補充【思・判・表】

観点別でテストを作ると
振り返りが楽に！

【知・技】の出題形式は事前に生徒に予告し、十分に対策をさせるようにする。
【思・判・表】は授業で強化した英語力について測る。初見問題の難易度はReadabilityを測定して調整。
※昨年度 J K P 成果物を参照
⇒【知・技】で点数が取れていなければ「対策不足」 ⇒【思・判・表】で点数が取れていなければ「実力不足」

38

まとめ

振り返りの視点の提供



可能な範囲で
振り返りへの指導



内容のまとめりごとで
「深めの」
フィードバック

チェックリストや
一斉指導

振り返りシートの記述と
パフォーマンスの一致

面談・ALTとの協力

授業の大枠は変えず、
「態度の指導」という観点だけを足す

39

3. 最後に

40

今回の1つの成果

「何のために？」を深く考えるようになった

パフォーマンステスト...評価のためにやらなきゃ...
アウトプット活動...指導要領にあるからやらなきゃ...
音読...効果があるらしいからやらなきゃ... 等

チェックボックスでの振り返り項目を作ることや、
生徒の振り返りの記述内容と向き合う中で、
何のために言語活動を実施するかを考えるようになった。



授業に「ちょい足し」の考え方が、
授業を見る視点や、それぞれの活動に乗せる「こだわり」は増大

41

最大の成果

生徒の振り返りを窓にして態度を見取る

点数に見えない生徒の頑張りが見える

「やる気」がでます。
英語教育が楽しくなります。

この子
頑張っているなあ...

42

初任者研修の時の問いに対して

The mediocre teacher tells.

The good teacher explains.

The superior teacher demonstrates.

The great teacher inspires.

答えのない極めて難しい問いであるが、
モチベーションを高めること、「態度」を育てることの価値は
全ての先生が知っていること。

忙しい日々の中で

「態度」と向き合うことの価値を少しでも思い出せれば

43

参考文献

文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』。

文部科学省（2018）『新しい学習指導要領の考え方～中央教育審議会における議論から改定そして実施へ～』

国立教育政策研究所（2018）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』。

金谷憲（2009）『教科書だけで大学入試は突破できる』 大修館書店。

国立教育政策研究所（2018）『「学習評価の在り方ハンドブック」（高等学校編）』。

和泉伸一（2024）『実践例に学ぶ！CLILで広がる英語授業』 大修館書店。

投野由紀夫（1995）『ライティング指導における教師のフィードバックとその効果、語彙分析を中心に』口頭発表：関東甲信越英語教育学会第16回神川研究大会。

静哲人（2020）『ライティング指導における教師の添削の効果の過小評価に対する警鐘—パイロット・スタディの結果を参考に—』関東甲信越英語教育学会 研究紀要 第10号

44